2018SUMMER CHINACAMP REPORT

YUTA MAKOTO RIO
MASAMI RIKA
DAISUKE MISAKI
MANAMI

AUGUST 10TH-
SEPTEMBER 1ST

YOU CAN FEEL A LOT OF LOVE

FIWCKYUSHU × JIA

目次

1.　目次　…　2P
2.　巻頭言　…　3P
3.　FIWC とは　…　4P
4.　チャイナキャンプとは　…　5P
5.　ハンセン病とは　…　6P
6.　JIA とは　…　7P
7.　ワークキャンプとは　…　10P
8.　国内外のスケジュール　…　12P
9.　2018 年夏チャイナキャンプ形態　…　14P
10. キャンプテーマ＆キャンプ T シャツ　…　24P
11. 衣食住　…　25P
12. JIA 会員代表総会　…　27P
13. 各係の仕事　…　29P
14. 会計について　…　34P
15. 他己紹介　…　37P
16. 感想　…　39P
17. 今後の方針について　…　49P

“share”

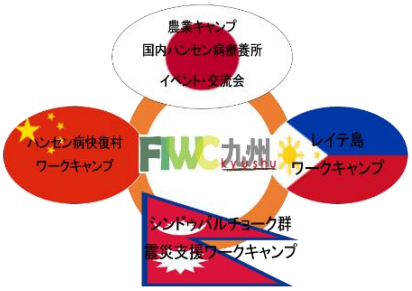
このキャンプテーマを掲げ行った
チャイナキャンプ

村人に寄り添い、分かち合い
楽しいことやうれしいことを共有し
時には悲しいことも
そうやってお互いのことを知り
認め合い
その中で絆が生まれ
また帰りたい
あの場所へ戻りたい
そう思う

そしてこの気持ちを多くの人に
“share”して
ハンセン病に対して
無知である人を減らしたい
そうすれば、きっと
偏見や差別は少なくなる
そう信じている

この報告書を読み
一人でも多くの人に
知ってほしい
ハンセン病を
そして
村人の“笑顔”や“愛”を

FIWC とは



FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ（Friends International Work Camp）の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団（AFSC）がワークキャンプを日本で実施したのが始まりで、1950 年代に AFSC から独立し、FIWC が結成されました。それ以来 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施しています。現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員会、東海委員会、九州委員会が活動しています。私たち九州委員会は九州（主に福岡）の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動をしており、国外ではフィリピン、中国、ネパール、国内では耶馬渓の農業キャンプや国立ハンセン病療養所などを中心に活動しています。また、私たち FIWC は、一般市民・学生による任意の非政府組織（NGO）であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体です。

FIWC 九州のチャイナキャンプとは

私たちは、かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人が住む

「ハンセン病快復村」でキャンプを行います。

村人はハンセン病が完治しているにもかかわらず、後遺症や周囲からの差別によって依然として孤立した環境や不便な生活を強いられています。チャイナキャンプでは、村の家屋の一室を借りて村人と生活を共にしながら 5 つのことを行っています。

村のインフラ整備を目的としたワークプロジェクト

→水路の建設、ゴミの撤去など

後遺症により日常生活が困難な村人の手伝いをするワーク

→村人の家の掃除、蚊帳やベットシーツなどの洗濯など

周囲の町や村に対してハンセン病について理解してもらう啓蒙活動

村人と楽しい時間を共有するためのパーティ

村や村人についての記録プロジェクト

私たちは、現地の NPO「家-JIA-」の会員である中国人学生と一緒に、これらの活動を行っています。

ハンセン病

―この病気の名前を聞いてどんなことを考えますか？

「初めて聞いた」「なんとなく聞いたことあるなあ」

「あ、昔差別されてた病気でしょ」「顔とか手とかが変形しちゃう病気だ」…

人それぞれ様々なことを思い浮かべるかと思います。
このハンセン病という病気はかつて癩（らい）と呼ばれ、世界中で差別されてきた病気です。その感染力は非常に弱く、現在の日本のように衛生状態の整った場所では、もうほとんど新規患者はいません。また、現在は治療法も確立されています。

「もう差別なんてなくて、患者だった人も今は元気なんでしょ？？」

そう思いますか？
実は、日本でも、中国でも、今もなお、差別は無くなっていないし、今直接、差別を受けていなくても、かつての傷跡は今も強く快復者に残り、快復者を苦しめています。
ハンセン病快復村の近くにある村に住む人々の中には、快復者を忌み嫌う人もいます。
また、自らのことを汚れた存在だと思い、誰かに恐れられる存在だと感じている快復者は少なくありません。

「お前は私のことが怖くないの？」

「どうか私を恐れないでくれ」そう伝えてきた快復者もいました。

快復村に来て以来、一度も家族に会うことができない快復者、家族に迷惑をかけないためにと偽名を使って生活する方もいます。また、中国の快復村では、毎月、国から補助金を受け取っていますが、そのお金では定期的に病院に行くことができず、行政の知らせをただ待っている村人もいました。
さて、ここまで読んで、快復者の方々はどんな方々だと思いますか？
暗～い、悲しいようなイメージでしょうか。
そうじゃないんですよ、実は。村人たちって本当にあったかいんです。私たちが来れば、心から喜んでくれて、いっつも私たちのこと気にかけてくれてるんです。彼らが私たちに話してくれたことは、きっと彼らが経験した苦しみのほんの一部で、でも彼らはその沢山の苦しみを自ら乗り越えて今を生きています。

そんな村人のことを私は心から尊敬しています。そして、大好きです。
最後に、私は、ハンセン病という病気に限らず、この世で最も恐ろしいことは

「無知であること」だと思います。

無知であることが悪いわけではありません。だって、最初はみんな何も知らないし、知らないものを怖いと思うことはいたって普通の感情だと思います。
ただ、知らないものをそのまま知らないままにしておくことは、知らず知らずのうちに差別や偏見の感情を放置しておくことになりかねないのではないかなと思うのです。
このチャイナキャンプでは「ハンセン病」という一つの病気を通して、

心ない差別・偏見がその対象となった人に、どれだけ深い傷を残し、苦しめるのか

を身をもって学び、感じることができます。
あれ、いつの間にかハンセン病について書くつもりがちょっと脱線してしまいしました…(笑)
まあ、そんないろ～～～～～んな感情を一気に体験できるチャイナキャンプの２０１８夏の報告書、ぜひここまで読んでくれた方はこの後も読み進めてみてくださいね～。

家-JIA-とは

私たちが行っているチャイナキャンプは FIWC 九州だけで活動をしているのではありません。中国の民間非営利団体『家-JIA-』（後述 JIA）という団体と合同で開催しています。

JIA は FIWC 関東委員会の OB である原田遼太郎さん（通称タイランさん）と数人の同志によって設立されました。中国国内南部の五つの省（広東省、広西省、湖南省、海南省、湖北省）にあるハンセン病快復村及びその周辺地域でワークキャンプを行っています。主な活動内容としては村のインフラ整備や、ハンセン病に対する差別をなくし、理解を深めるためのプロモーション活動などのプロジェクトです。

原田燎太郎氏（はらだ りょうたろう）
1978 年、神奈川県生まれ。早稲田大学卒業後、2003 年 4 月に中国ハンセン病快復村リンホウ村（広東省潮州市）に移住。2004 年 8 月、ハンセン病快復村でのワークキャンプ（労働奉仕ボランティア）をコーディネートする中国の NPO「家-JIA-」を設立。日本だけでなく中国での講演実績も豊富で、その活動は内外から大きな評価を得ている。

タイランさんとは日本で会える機会もあるのでその時はぜひ話してみてください！
JIA やワークキャンプ、NPO のことなど、貴重なお話が聞けるかも？！

JIA は、現地（快復村）の生活及び社会環境を改善すると同時に、その体験を通して若者の成長を促し、社会に貢献する人材の育成を担っています。計 8 つの地区委員会と事務局が存在しており、各委員会は現地の大学生を中心としたボランティアが自主的に活動を運営し、事務局はその活動を人材育成、情報、物資、財務など様々な面からサポートする機関です。また、大学卒業後には“Buck up Team”を組織してサポートを行っています。

家-JIA-の理念

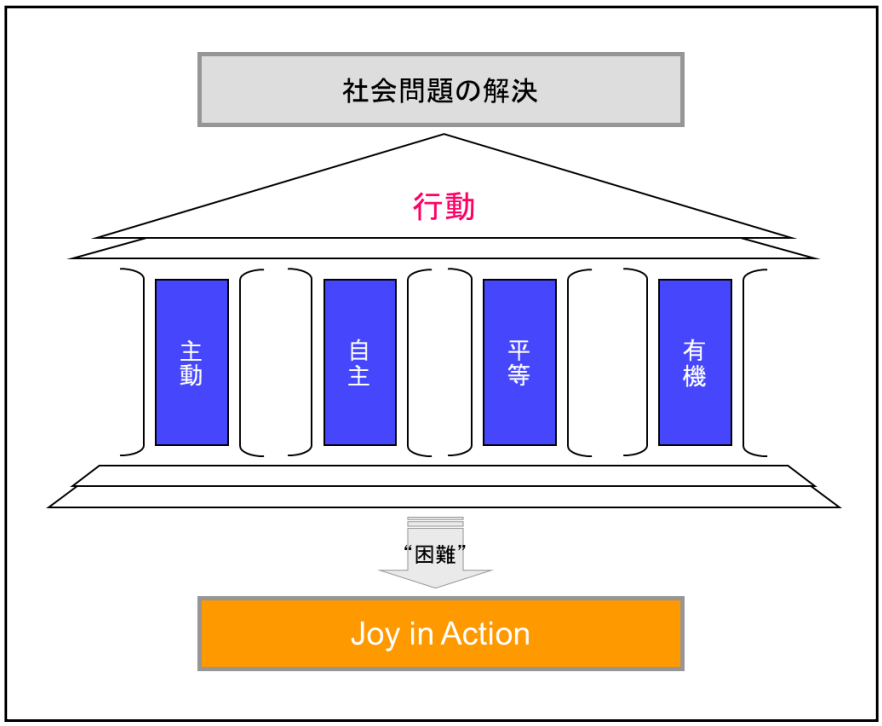
“Joy In Action”

社会にはたくさんの問題があります。
人によって意見も異なります。
議論し、考えるだけでは
問題の解決につながらないことも多いです。

行動が必要なのです。

それぞれが主体的、自主的にワークキャンプに参加することで、
互いの違いを認め、尊重しあい、ツナガリが生まれる。

この過程には多くの時間やエネルギーを要するかもしれません。
しかし、その過程の先にあるものこそが、“Joy In Action”です。

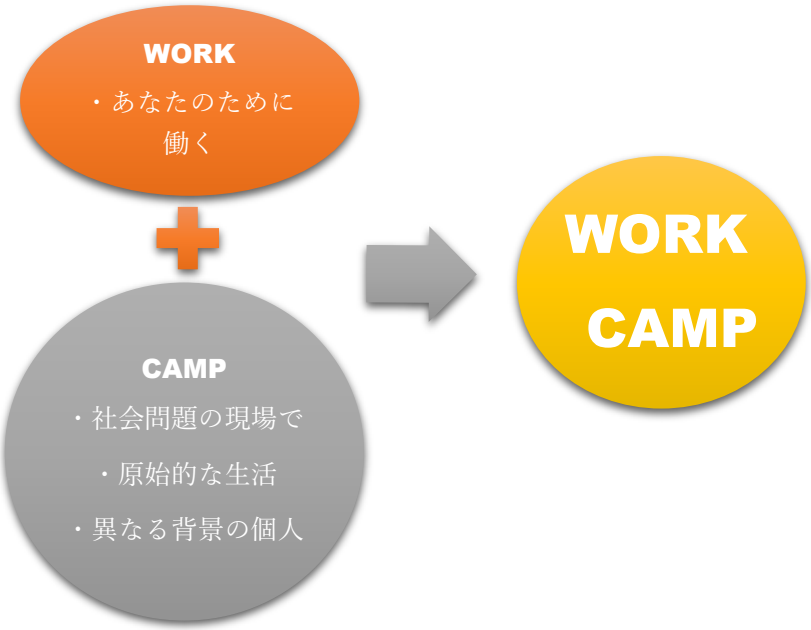


JIA 広州委員会

私たちは中国の広東省広州地区にある JIA 広州委員会と共同でキャンプを行っています。メンバーはほとんどが広州市内にある大学の学生です。ミーティングや雑談など、彼らとは英語でコミュニケーションをとります。年齢が近いこともあってとても仲良くなることができ、日本に帰ってきてからも連絡を取り合う仲です！

ワークキャンプ

ワークキャンプとはその名の通り work と camp を組み合わせてできた言葉です。



ワークキャンプ　はボランティア活動の形態の一つで、外部から支援するのではなく、現地に赴き、そこで共同生活をしながらその場所で必要とされているワークを行うキャンプのことです。

〈 JIA のワークキャンプ 〉

JIA のワークキャンプでは 20～30 名ほどのキャンパーがハンセン病快復村およびその周辺地域で 1~3 週間現地の人々と共同生活し、インフラ整備や現地の人々との交流、啓蒙活動などのプロジェクトを行います。

ワークキャンプをしていくなかで、ともに飲み、語り、食べ、汗を流しながら一緒の時を過ごし、キャンパーと村人（ハンセン病快復者）の間にはツナガリが生まれます。

また、JIA のワークキャンプはハンセン病快復村に生活、経済、健康、社会（差別の軽減）、心理などの様々な面においての変化をもたらしてきました。

スケジュール

【日本でのスケジュール】

5/20　キャンパー募集締め切り
6/4　第一回 MTG@びおとーぷ
6/21　第二回 MTG@びおとーぷ
6/28　第三回 MTG@びおとーぷ
7/5　第四回 MTG@びおとーぷ
7/12　海外安全セミナー@九大病院キャンパス
7/17　第五回 MTG@びおとーぷ
7/27　第六回 MTG@びおとーぷ
8/7　第七回 MTG@びおとーぷ
8/9　決起会＆日本食練習@びおとーぷ

【中国でのスケジュール】

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					8/10	11
					先発組出発	JIA オフィス滞在
12	13	14	15	16	17	18
	高明村滞在					
19	20	21	22	23	24	25
	JIA オフィス滞在	広州観光		カンファレンス	後発出発	
26	27	28	29	30	31	9/1
	儒洞 visit MTG 後発と合流	儒洞村 visit				帰国

【タイムテーブル】

〈　高明村 ver.　〉

TIME	JOB
7：00	起床
7：15～7：45	ランニング キャンプダンス練習
7：50～8：20	朝食
8：40～11：50	午前プロジェクト
12：00～12：30	昼食
12：30～14：20	自由時間
14：30～17：50	午後プロジェクト
18：00～19：00	夕食
19：00～20：00	自由時間
20：00～22：00	MTG
22：00～22：40	レクリエーション
22：40～24：00	ナイトチャット

〈　儒洞村 ver.　〉

TIME	JOB
7：30	起床
7：45	ランニング
8：00～	朝食
8：30～	村人訪問
12：00	昼食
12：30～	自由時間
14：30～	村人訪問
18：00～	夕食
20：00～	MTG 等
21：30～	ナイトチャットなど

2018 年夏チャイナキャンプ形態

2018 年夏チャイナキャンプは、FIWC 九州から 7 名と FIWC 関東から 1 名の計 8 名で JIA の広州地区委員会とキャンプを行いました。
しかし JIA のワークキャンプに参加できる日本人の人数が 5 名までと決められていたためキャンパー8 名を、ワークキャンプから参加する 5 名（先発組）と visit キャンプのみ参加する 3 名（後発組）に分けてキャンプを行いました。

＊先発組(8/10-9/1) （ワークキャンプ、Visit キャンプ参加）
参加者：ゆうた、しばたー、だいすけ、まさみ、りか

＊後発組(8/24-9/1) （Visit キャンプのみ参加）
参加者：みさき、りお、まなみ（FIWC 関東）

ワークキャンプ in 高明村

今回は高明村(ガオミン村)に 7 日間滞在し、ワークキャンプを行いました。村には 50 名程の村人が住んでおり、水、電気の通った比較的に環境が整った村です。様々なボランティア団体が出入りし、JIA も何度も訪れたことのある村だけあって、キャンパーに対してとてもフレンドリーな村人が多くいます。4 人の日本人キャンパーは以前この村に訪れたことがあり、里帰りするような感覚でキャンプに望むことが出来ました。

・日程　8/13-19
・参加者
　日本人キャンパー5 名
　中国人キャンパー18 名

・活動内容

1. ビッグクリーニング
2. “Please Teach Me”
3. 健康診断＆ガイダンス
4. 地域広報
5. 映画＆メッセージビデオ鑑賞会
6. Garden Party
7. Party
8. Meal Party

ビッグクリーニング

村には大量のコケが生えており、非常に滑りやすく危険な状態でした。そこでブラシと薬品を用いてコケの除去を行いました。また、村人の家・キャンパールームの掃除も行い、村人にはとても喜んでもらえました！

“Please Teach Me”

村人の中には自己肯定感が低く、日々の日常に対して否定的な感情を抱いている方がいらっしゃいます。そこで、ホームビジットの最中に、村人が興味を持っていることを共有し、また、特技を見せてもらいました。歌が上手い、手相占いができる、様々なジャンルのニュースに精通している等、意外な村人の側面を見ることができ、とても楽しい時間を送ることができました。これを通して、村人が少しでも日々の生活に肯定的な姿勢を持ってくれることを願っています。

健康診断＆ガイダンス

ホームビジットと並行して、村人の健康情報、服用薬について調査を行いました。また1つの班は村人の血圧を測ってまわりました。その後、村人を一挙に集め、健康に関するガイダンスを行いました。

地域広報(Community Publicity)

高明村から徒歩1時間圏内に存在するZehe村(非ハンセン病快復村)を訪れ、広報活動、インタビューを行いました。約半数のZehe村の人々は、ハンセン病について誤った知識を持っており、中には否定的な感情を抱いている方もいました。正しい知識を持ってもらい、偏見を払拭するためにも、広報活動として、どのようにハンセン病回復者が暮らしているか、彼らの日々の活動、経済状況などの正しい情報を伝えました。この活動を通して、今でもハンセン病差別は続いているという現実を目の当たりにし、現状の問題点について考えさせられました。

映画＆メッセージビデオ鑑賞会

8/16の夜、月明りの下でコメディカンフー映画を村人たちと鑑賞しました。以前からキャンパーと映画が観たいと言っていた村人もいて、大勢の村人と笑い合う夜を過ごすことができました。映画が始まる前には、以前高明村に訪れたことがあるキャンパーからのメッセージビデオを流し、村人も懐かしがっているようでした。

Garden Party

村人でも簡単に遊ぶことができるゲームを４つ用意して遊びました！

１．ボウリング

材料は紙で作ったボールとペットボトルだけ！ストライク連発！

２．ジェスチャーゲーム

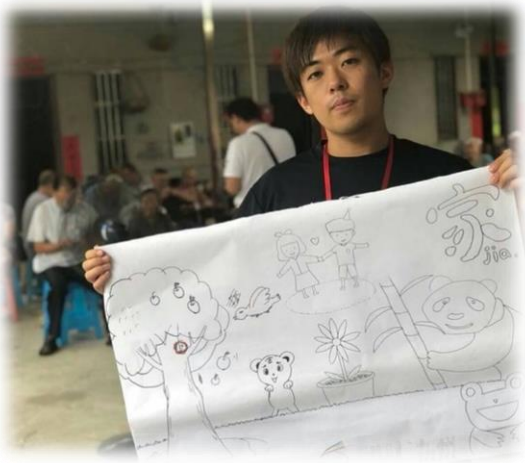
キャンパーがジェスチャーして村人が答える！中には「石」などの無理難題！正答率第一位のお題は「麻雀」！

３．写真撮影

キャンパーと村人が一緒に指定されたポーズでパシャっと！ポーズをとる村人がただただ可愛い！

４．広東語早口言葉

早口言葉を村人に言ってもらう！ちょっとゆっくりでも気にしない。



どれでも３回クリアしたら、景品(巻きずし・パンケーキ・ゼリーの中から一つ)を差し上げました。ゼリーが人気すぎて、村人も何周も奮起していました。村人と楽しい時間を共有できる非常に有意義な時間だったと思われます。

Party

村人全員を招待して、様々なパフォーマンスを披露しました。
以下にいくつか演目を紹介します。

・マジックショー

コインマジックとトランプマジックを披露！しばたーもトランプ頑張った！

・劇

広東語で劇を行いました！日本人からは唯一ゆうたが「木のオバケ」役として出演！

・福笑い

日本人企画として日本の伝統的な遊びである福笑いをしました。顔は日本人・中国人の各 OB・OG を含めて行いましたが、出来上がった顔は悲惨なもので、とても盛り上がりました！(笑)

・高明ファッションショー

キャンパー約 10 名が各々模索し、ファッションショーを行いました。中国人キャンパーの西洋ガンマン姿やまさみが日本から持参した甚平姿はとても可愛がられました。だいすけとしばたーは女装して「変なおじさん」として出演しましたが、概念が伝わらない村人が多くややウケでした。

〈Party 総括〉

沢山の村人の笑顔を見ることが出来ました！☆

Meal Party

Party 終了後、キャンパーと村人が一緒にご飯を食べました。普段のホームビジットとはまた異なる雰囲気で食事を共にし、また、これが最後のプロジェクトということもあり、村人との結束を確かに感じることができました。

＊日本人企画

今キャンプでは日本人企画として冷麦を振る舞いました。中にはおかわりを求める村人もいてくれた本当に嬉しかったです。しかし、数人の村人から「冷たすぎる」という声を貰ったため、普段冷たいものをあまり食べない村人への配慮が足りていませんでした。

儒洞村ビジット

高明村キャンプ、カンファレンス後に高明村でビジットを行いました。中国人と合同で行う Party と日本人のみで行う日本人企画を行いました。

日程　8 月 28 日～31 日の 3 泊 4 日

参加者　日本人キャンパー8 人
　　中国人キャンパー8 人　　計 16 人

Party

活動内容

① 日本語教室
② マジック
③ 紙風船割り
④ カンフー
⑤ けん玉

雨やコケの影響で予定していたダブルダッチを行うことができなくなってしまいましたが、急遽中国人キャンパーも協力してくれることになり日本人と中国人の合同で行いました。村人が喜んでくれるかどうか不安でしたが、どの企画も盛り上がり楽しい時間を過ごすことができました！

風鈴作り

3 日目の 8 月 30 日、村人を集めて日本人企画の風鈴作りを行いました。細かい作業が多い企画だったので、村人には風鈴につけるプラスティックコップや短冊に絵や文字を書いてもらいました。
作り終わった後、村人の家に飾りに行きました。

足が悪くて動けない村人や仕事で村を出ている村人には、
家に行って一緒に風鈴作りをしたり、
キャンパーが作った風鈴をプレゼントしたりしました。
4 日間村人と楽しくのんびりした時間を過ごすことができました!
また行きたいなぁ

谢谢!

キャンプテーマ

2018 年夏チャイナキャンプのテーマは

「　share　」

このテーマは、キャンパーみんなで話し合い、アイデアを出し合って決めました。サブタイトルはあえて付けずに、キャンパーそれぞれが思いをもってこのキャンプに取り組めるようにしました。村人と楽しい気持ちも悲しい気持ちも共有したい、また、村人だけでなく、キャンパー同士の中でもお互いに気持ちを共有しようという意味が込められています。

キャンプ T シャツ

デザインは、キャンパーが個々に持ち寄った案の中から、話し合って決めていきました。FIWC と JIA を組み合わせたロゴを胸元に、そして一見アルファベットがごちゃごちゃと書かれているように見える背面は、キャンプテーマの share に加えて、キャンパー全員の名前と、JIA、の文字が隠されているんです。ぜひ見つけてみてください！

【※完成した T シャツの写真です↓】

衣食住

〇衣 … 中国は日本よりも湿気があってとても暑かったです。上は半袖で、蚊やハエが多いため、下は長ズボンを履いているキャンパーが多かったです。虫刺されは人によって個人差があり、たくさん刺されている人もいれば、全く刺されていない人もいました。靴は基本的に動きやすいクロックスを履いて過ごしました。

〇食 … 近くのマーケットで食材を買って、みんなで手分けしながら料理してご飯を作りました。村にはかまどがあったので、そこで火を焚いて大きな鍋で調理しました。ご飯やスープ、肉料理、野菜料理など、どれも美味しかったです。味覚の違いがあるのか、塩を少し入れただけでチャイニーズキャンパーが塩辛い！と言っていたのが印象的でした。

○住…村にはキャンパーが寝泊まりするための部屋があり、そこにゴザを敷いてミーティングしたり、寝たりしました。夏で暑かったため、布団は必要ありませんでしたが、虫よけスプレーは必須です！寝ている間にたくさん蚊に刺されてしまったキャンパーもいました。

○お風呂＆トイレ … シャンプーやリンスなどは日本から持って行ったものを使いました。高明村は、トイレとシャワーが一緒になっていました。儒洞村は、熱湯が出る蛇口があったので、それと水をブレンドしてバケツに溜めて、手桶で体を流しました。トイレは、便座がなく、便器だけのものもありました。流すときは、バケツに水を入れ上からかけて流します。紙は流せないので、ゴミ袋に入れました。

JIA 会員代表総会

≪　概要　≫

〈スケジュール〉

第10回　家~JIA~会員代表総会

日時：2018 年 8 月 23 日(木)～8 月 26 日(日)

場所：広西省チワン族自治区南寧市興寧区蔡武路 23 号　銀林山荘

23 日	集合、レクレーション
24 日	会員代表総会、地区委員会の報告 映像鑑賞
25 日	ディスカッション、フリーマーケットスポーツ大会、パーティ
26 日	解散

〈団体紹介〉

2 日目の地区委員会の報告の際に、FIWC 九州の団体紹介をだいすけが英語で行ってくれました。団体紹介は、国内での活動と国外でのワークキャンプについて行いました。紹介の後、質疑応答も行いました。JIA のほうから多くの質問を受け、お互いを知るのにとても良い機会だったと思います。

〈ディスカッション〉

ディスカッションは三日目に行われました。中国語で行われるディスカッションに参加するのは難しいので日本人だけで、FIWC 九州チャイナキャンプの問題について話し合いました。

〈フリーマーケット〉

フリーマーケットは三日目に行われました。各地区キャンプ T シャツやステッカーなどを販売していました。FIWC からは日本で購入した、日本特有のものを販売しました。ほとんどの商品を売ることができました。

〈スポーツ大会〉

三日目に行われたスポーツ大会では綱引きが行われました。各地区に分かれて戦いました。FIWC 九州は広州地区とともに参加しました。

〈パーティ〉

三日目の夜にパーティが行われました。各地区がキャンプ T シャツショーを行いました。私たちは広州地区と行いました。いろいろな地区の人や JIA の職員の方々と交流することができました。タイランさんや事務局長や各地区の OB・OG などと、熱い話をすることができました。

各係の仕事

GL(ジェネラルリーダー)：ゆうた

〈仕事内容〉
・チャイニーズとキャンプについて話し合う
・キャンパーの安全や健康管理

〈総括〉
今回様々なところで準備不足でチャイニーズキャンパーに迷惑をかけてしまった。新キャンパーへの気遣いやフォローが十分ではなかった。キャンプ前にしっかり話し合うべきだった。そして GL はどういうものなのか、どのようなことをすべきなのかをしっかり理解してキャンプに臨むべきだった。しかし大きな事故や病気はなく、みんな多くのことを学び、行動していたのでよかったと思う。

EL（イベントリーダー）高明村キャンプ：しばたー

EL メンバー！

〈仕事内容〉

キャンプ前

・キャンプダンス、キャンプソングの決定
パーティで踊るダンスと食事前に歌う歌を何にするのか EL の間で話し合って決めます。
・パーティ、ガーデンパーティの準備
パーティやガーデンパーティでどのようなプログラムをするのか、事前に話し合いを行います。
・パーティの日本人企画の準備
今回は日本人企画として福笑いをしました。その道具や内容を決めて日本にいる間に作って準備しておきます。福笑いの顔は以前、高明村に来たことのあるオールドキャンパーの顔で作りました。
・レクリエーションの準備
キャンプ中の昼休み後とミーティング後に椅子取りゲームやジェスチャーゲームなどのレクリエーションをしました。どんなゲームをしたらみんなが楽しめるか考えながらキャンプ前に話し合いをします。

キャンプ中

・キャンプダンスの指導
毎朝、パーティに向けてダンスの練習をします。一日を元気に過ごせるように朝一番にダンスで体を動かします。

・レクリエーション
・ナイトチャットの準備
一日の最後にビールやお菓子などを食べながらみんなで語り合う時間があります。そのテーブルや食べ飲み物の準備をします。

・パニッシュメント
キャンプ中には様々なルールが設けられています。そのルールを破った人にはパニッシュメント、要は罰ゲームが待っています。例えば、集合時間に遅れるとか、ネームカードを首に下げていないとかなどなど。EL はその罰ゲームを決めることができます！！！

・パーティ、ガーデンパーティの運営
仕事の割り振りや村人の招集のグループ分けなど、みんなに指示を出してまとめます。

〈総括〉

EL は上に書いたように仕事がとても多いですが、大部分はチャイニーズキャンパーが担ってくれるのでそれほど心配はいりません。日本人からはいろいろなアイデアを出してサポートしていくような流れです。しかし、今回、私とチャイニーズの EL のスケジュールが合わず、事前ミーティングが十分でなかったので、キャンプ中うまくいかないことが多かったのが反省です。EL は特にキャンプ前の話し合いが大切なように感じました。

EL（イベントリーダー）　儒洞村キャンプ：まさみ・りか

〈仕事内容〉
プロジェクトの準備

〈総括〉
風鈴作りに関して日本で事前に試作品を作っていなかったため、中国で作ることになってしまい、チャイニーズへ作りかたを説明する際、うまく伝わらなかった。また思っていたよりも細かい作業が多くなってしまった。次回行くときは試作品などを実際に作ってから挑みたい。

KP（キッチンポリス）高明村キャンプ：まさみ

〈仕事内容〉
・meal party の準備
・please teach me の準備
・各食事の調理メンバー、食後の皿洗いメンバーの決定
・残っている食材の把握
・買い出しの管理
・日本食についてチャイニーズ側の KP に連絡
－－－

please teach me
村人の趣味をあらかじめキャンパー全体にシェアしておくべきだった。
日本食
今回は冷麦（そうめんよりも少し太い麺）を日本から持っていった。中にはおかわりしてくれる村人もいるほど好評だったが、反省点もあった。
→反省点：冷たいものを食べてもらおうと可能な限り冷やして提供したが、村人の中には冷たすぎると感じる村人もいたため、次回以降のキャンプで、日本食を提供することがあれば、その点にも考慮して日本食を選択してほしい。

KP（キッチンポリス）儒洞村キャンプ：しばたー

〈仕事内容〉
・毎日の料理と皿洗いのシフト管理
誰が朝、昼、晩の料理を作るのか、そして、食後の食器を洗うのかを決めます。強制ではなくて、挙手によるボランティア制で決めます。
・食材、キッチンの管理
どのくらい食材が残っているのか、キッチンが汚れすぎていないか簡単に把握しておきます。

〈総括〉
ビジットということで 4 日間しかなく、仕事もそれほどないので円滑に回せたと思います。

LL（ライフリーダー）高明村キャンプ：りか

〈仕事内容〉
プロジェクトの準備
ベッド決め
保険バックの管理
朝清掃のシフト管理

〈総括〉
キャンプ前に WeChat でコミュニケーションを少し取っていたため、穏やかな関係を築くことができました。プロジェクトも変更点はありましたが円滑に進むことができたと思います。しかし、チャイニーズ側の LL の負担が少し大きかったのでもう少し協力できることがあったらよかったなと後悔しています。

LL(ライフリーダー) 儒洞村キャンプ：りお

〈仕事内容〉
・保健バックの管理
・日本人キャンパー全員の体調管理
・最後の大掃除の指示出し

〈総括〉
visitでは、特に大きなケガ・事故等がなく、あまり体調不良者がいなかったため良かった。虫刺されが少し気になったが、高明村での虫刺されがひどく、儒洞村の方が被害が少ないようであった。また、蚊に刺されたらみんなが保健バックの「ムヒ」よりも、みさきの「かゆみとバイバイ」を使用したため次のキャンプでは「かゆみとバイバイ」を持っていくことを強く推奨する。

RL（レコーディングリーダー）高明村キャンプ：だいすけ

〈仕事内容〉
・キャンパーカードの作成
・毎日のレコーディングプランの作成、共有
・普段の生活やプロジェクトなどキャンプのあらゆるシーンを写真や動画で収める
・映画鑑賞の運営
・キャンプ後動画の作成(中国人メンバーが作成)

〈総括〉
・ワークキャンプ初日のレコーディングプランが不足していた。
→キャンプ前日の MTG で取り上げるべきである。
・スケジュールの都合上、本来は日本人が作るはずだったキャンパーカードの作成を中国人が行った。
→キャンプ前の事前 MTG を早めに行う必要がある。

RL（レコーディングリーダー）儒洞村キャンプ：みさき

〈仕事内容〉
・村や生活環境の様子の撮影
・村人やキャンパーの交流や活動の様子の撮影

〈総括〉
建物や風景の写真、そして村人とキャンパーが楽しそうに交流している素敵な写真がたくさん撮れました。

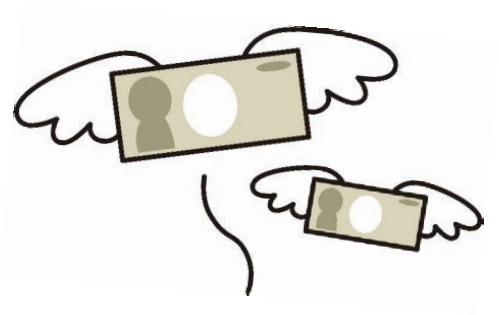
会計について

担当：中川大輔(先発組)、井上梨央(後発組)

〈概要〉
今キャンプは先発・後発組と分かれていたため、会計を完全に二分した。
〈仕事内容〉
・資金の徴収、換金。
・生活費と個人費に分割後、前者を管理。

〈換金〉
先発組(5 人)：153,000 円→9,120.3 元　(1 元=約 16.45 円)
(追加)10000 円→610 元　(1 元=約 16.39 円)
後発組(2 人)：39,534 円→2,200 元　(1 元=17.97 円)
＊先発組は中国の JIA オフィス付近の銀行で、後発組は日本で換金を行った。
＊先発組の会計には地球市民どんたく用に FIWC 会計から 3,000 円支給された。

〈全体会計収支〉
＊以下全て一人当たりの金額
＊円の小数点以下切り下げ
〇先発組
［国外］
〇支出



交通費	440.6 元	7,247 円
宿泊費	61.76 元	1,015 円
高明キャンプ	217.6 元	3,579 円
儒洞ビジット	328.5 元	5,403 円
飲食費	194.52 元	3,199 円
娯楽費	50 元	822 円
医薬品	5.3 元	87 円
カンファレンス	312 元	5,132 円
合計	**1,610.28 元**	**26,489 円**

〇収入

引き継ぎ	1.49 元	24 円
バザー売り上げ	93.2 元	1,533 円
合計	**94.69 元**	**1,557 円**

＊個人費：32000-26489+1557=**約 7068 円**

[国内]（一人あたり）

航空券(往復)	66,000 円
日本人企画準備費	約 1,000 円
バサー資本金	600 円
海外保険費	約 10,000 円
キャンプ T シャツ	2,580 円
合計	**約 80,180 円**

[一人当たり総支出]

80,180+32,000=**約 112,180 円**

〇後発組

［国外］（一人当たり）＊小数点以下切り捨て

交通費	46.5 元	417 円
宿泊費	43 元	386 円
ルーフォンビジット	340 元	3,054 円
儒洞ビジット	328.5 元	2,951 円
飲食費	144.25 元	1,296 円
合計	**902.25 元**	**16,213 円**

*個人費：19,797-16,213=**約 3,554 円**

［国内］

航空券	58,265 円
海外保険費	8,650 円
キャンプ T シャツ	2,580 円
日本人企画準備費	約 500 円
合計	**約 69995 円**

［一人当たり総支出］

19,797+69,995=**約 89,792 円**

〈総括〉

・前年度と比べて、カンファレンスにかかる費用がかさみ、追加徴収が多くなってしまい、最終日に再度換金をしなければならなかった。

・先発組、後発組の会計を完全に二分したことは、混乱を防ぎ、時間の節約となったため良かったと考えられる。

・多くの場面で領収書をもらうことが困難だった。

→今後も領収書をもらうシステムを続けるのか検討する必要がある。

（文責　中川大輔）

他己紹介

ゆうた

彼は今回のチャイナキャンプリーダーである。持ち前の明るさと場を盛り上げる才能で人気者の座は俺のものだといわんばかり！とても頼りになるリーダーでした！三回も一緒にワークキャンプに参加できてとても楽しかった！またいつか、一緒に中国に行きたいな！
By しばたー

だいすけ

新キャンパーでありながら新キャンパーではない（！？）
チャイナ、フィリピンを経験し、もう一度チャイナへ戻ってきた男。
チャイニーズの女の子からは「You are a handsome boy!!」ともてはやされ、他の日本人男子キャンパーから羨望の目を向けられていたようです。おめでとう。女子キャンパーとは恋バナに花を咲かせました（＾＾９）見た目とは裏腹な恋多き男…（笑）（この写真は私の携帯で可愛い女の子と勝手に撮っていたのです…）
By まさみ

りお

彼女の名前は井上梨央。自分の意見はしっかり言う反面、天然でどこか抜けているおバカちゃんである。後発でくる彼女の到着までみんなヒヤヒヤしたり、彼女のアホな発言に時が止まったり…。キャンプが笑いに包まれたのは彼女のおかげ。留学頑張ってね。あとパスポートの写真、最高だね(^ε^)-☆
By りか

りか

小柄で可愛らしいルックスとは裏腹に、超毒舌というとんでもないギャップの持ち主であるりかさんですが、実はある弱点が…それは「お腹」です！何度もトイレに行っている姿は印象的でした（笑）
Visit では、すらすらと英語でチャイニーズキャンパーと話していてとてもかっこよかったです。また、キャンプ中にはあんな話からこんな話までとてもノリノリで、新たな一面を見せてくれました。
By みさき

まさみ

FI 九州のお母さん。キャンプではみんなの頼れる存在！キャンプに行く度にレベルアップしてる気する！村人とも仲が良くて中国キャンプに対しての愛も人一倍？！♡♡♡これからの活躍も期待大！
By まなみ

みさき

今キャンプ唯一の一年生！おっとりした性格で癒やしキャラとして先輩達のご寵愛を一挙に受けてきたことでしょう！キャンプ中は英語に慣れないと言いながらもチャイニーズキャンパーとちゃっかり仲良くなっていた模様！これからのみさきの活躍が楽しみで仕方がありません！
By だいすけ

しばたー

彼は今回３度目のチャイナキャンプであるが、なぜ３回も参加したのか、、、　その答えを知る、３回彼とともに中国へ行っているＹさんは「彼には思いを寄せているチャイニーズキャンパーがいるんですよ。」と証言。
そう！！彼は恋をしているのです！！！
今回のキャンプで思いを寄せるチャイニーズに告白できたのか！！　そして付き合えたのか！！！？
真実はいつも一つ！！
By ゆうた

まなみ

一緒にキャンプを過ごしていると分かる。まなみさんは変態下ネタ大好きで、1 週間ともに過ごしたが毎日 1 下ネタは言っていた。それに、めちゃめちゃ人をバカにしたがりで、めんどくさがりで、でも責任感もあってリーダーも経験したことがあるからさすが old キャンパーって感じだけど、やっぱりずっと私をバカにしてくる。
つまり結論、扱い方にはご注意下さい
By りお

感想

今回私にとって三回目となるチャイナキャンプでした。よく友達から、
「またお前中国に行くの？」と言われます。自分でも不思議です。私が入学したとき、まさか三回も中国に行くとは思ってなかったからです。さらに FIWC にはいったきっかけも、フィリピンキャンプに参加したいと思い入ったからです。このような気持ちを持っていた入学当初の自分が、なぜチャイナキャンプへ何度も参加したのか、

きっかけは先輩たちがチャイナキャンプの説明をしてくれたことです。最初は何を言っているかすべてを理解することはできませんでした。ただ、先輩たちのものすごく熱い気持ちやチャイナキャンプで何かに心を動かされたのは伝わってきました。先輩たちをここまで熱くさせるものって何だろう。これが始まりです。そして一年生の夏に参加をすることを決めました。最初はハンセン病についてほとんど知識がありませんでした。MTG 重ねて徐々に理解していきました。そして中国へ行き、様々な刺激を受けました。毎日が非日常的でした。ハンセン病快復者はどのような人なのだろう。言葉も通じない人とどのようにコミュニケーションを取ればいいのか。そして先輩たちのあの熱い気持ちはなんなんだろう。毎日いろんなことを考えてました。そして最初のキャンプが終わり、先輩たちが言っていたことが少し理解できた気がしました。けど、何かモヤモヤしていました。自分は村人にたくさんのことを教えてもらいました。しかし自分は村人に対して何もできませんでした。村人との距離も中途半端なものでした。多分これがモヤモヤの原因だったと思います。そして二回目に参加しました。こんなモヤモヤはあったけど、二回目参加した理由は、もう一度村に訪れたい！！と思ったからです。最初よりもたくさん準備しました。どうしたら言葉を使わないで村人とコミュニケーションを取れるのか、どんなことをしたら村人は喜んでくれるのか。そのとき村人が喜んでくれる姿を想像するだけで楽しかったのを覚えています。そして二回目は村人との時間を大切にしました。休み時間も一人で村人のところに行ってました。二回目のキャンプはとても充実してました。そして二回目のキャンプが終わり、今回の三回目でリーダーとして参加しました。参加理由はただ、ただ単純に村のおじいちゃん、おばあちゃんに会いたかった。これが理由でした。おそらく何度もチャイナキャンプに参加している人たちはみんなこの理由だと思います。ただ今回のキャンプは今までと違い、リーダーという立場での参加でした。チャイニーズキャンパーと連絡と取り、キャンプを組織しなくてはいけませんでした。振り返ると全然できてなかった気がします。自分の予想をはるかに超える難しさでし

た。チャイニーズキャンパーに負担をかけていた気がします。準備不足でした。しかし周りのキャンパーに助けてもらい何とかなりました。みんなありがと！！

　チャイナキャンプに三回参加したけど、また村に行きたくなります。自分にとって村は第二の家族のような存在です。今回のキャンプでチャイナキャンプは最後になるけど、また村に帰りたいと思っています。チャイナキャンプは人と人とのツナガリをすごく感じます。こんなにも心の温かい人たちに出会えることはそんな多くはないと思います。本当に素晴らしいキャンプだと思います。多くの人にこの経験をしてほしいと思ってます。

稲原佑太

今回のキャンプは３回目のキャンプ、そして初めてのオールドキャンパーとして挑んだキャンプでした。楽しくて、癒されて、笑って、そして、悩んで、後悔もしたキャンプ。今はただ、じいちゃん、ばあちゃん、チャイニーズに会いたいな～って思うばかりです。やっぱり何回行っても思うのは、中国が、中国人が、キャンプが大好きだなあってことで、チャイナキャンプを選んだら最後、この魅力に取り憑かれ、チャイナに二度、三度と行ってしまう人は数知れず…。（笑）言わずもがな、私もその一人です。（笑）

三度目ともなると、キャンプに行くぞ！！！というよりも、自分のじいちゃん家にか～えろっ。というふうな気持ちで良くも悪くも張りつめた緊張感のないキャンプでした。（私にとっては）だから、感想って何書こう…ってなっちゃうんですよね。おじいちゃん家に帰った感想とか思いつかなくないですか？（笑）

ん～だから、今回はチャイナキャンプに何度も行ったからこそ感じることのできた素敵な体験を書こうかなと思います。

何よりも、今回は２つの村で村人が私を覚えていてくれて、名前を村人の方から呼んでくれたことが一番嬉しかったです。中国という遠く離れた場所で誰かの心に自分の存在がいるってことが本当に素敵で嬉しいことだと思いませんか？1 回目、2 回目のキャンプでは他のキャンパーが村人との再会を喜び合っている姿を羨ましく見ていただけに、今回自分もその再会を分かち合えたことがとっても嬉しかったです。

次に、村人と話していて基本的に村人が何を言っているのかは分からないんですが、ある時「好開心（ホウホイサム、広東語でとっても嬉しい）」という単語だけが聞き取れて、あ、今このばあちゃんは嬉しいんだ、って英語を介さずにストレートにばあちゃんの感情を理解することができたことになんだか感動してしまいました。そして、何人もの村人が「お前

と中国語、広東語で話せたらもっといいだろうなあ」と言ってくれて、そんなふうに思ってくれていたことが嬉しくもあり、それができないことにもどかしさも感じました。中国語、勉強しようかなと思ってます。（笑）（単純）
最後に、高明村での滞在中のある日、チャイニーズとおしゃべりしていたら、他のチャイニーズから呼ばれ、なんだろうと思い行ってみると、ある 2 人の村人が「なんで今日昌美はまだここに来ないんだ、呼んできてくれ」と言われたから呼んだんだ、とのことでした。私自身は村をプラプラして、村人のところに行ってはいましたが、村人から呼ばれたのは今までで初めてで、思わずにやけてしまったのを覚えています。かわいいでしょ、村人。
他にもたくさんあるのですが、書き出すと止まらなくなるのでこのくらいにしておきます。聞いてもらったら、いくらでも村人愛、チャイナ愛をお伝えします。（笑）
最後に、今回キャンプを実施する上でご協力いただいたオールドキャンパーの皆様、JIA のメンバー、一緒に行ってくれたキャンパー、全ての方々に感謝申し上げます。これから先も、この心暖かいチャイナキャンプで多くの人が素敵な経験ができますように。ゆうた、GL お疲れ様、ありがとう。みんなありがとう。寝相なおすね。りお提出遅れてごめんね。（笑）

永尾昌美

今回は 3 回目のチャイナキャンプでした。3 回目にもなると新しい発見なんかないんじゃないかと思っていましたがそんなことは決してありませんでした。今回、僕が一番学んだことはオールドキャンパーとしてのあり方、キャンプをいかにして成功させるかといったキャンプに参加するというよりはどう作っていくかということでした。最初のキャンプはもちろんニューキャンパーなので全てが未知の体験で一緒に行った先輩の姿を見ながら日々成長ってかんじでした。そして、2 回目は前回の反省を活かしながら自分で考えて積極的に行動していく、また、メンバーが同期のみだったのでみんなで助け合いながらのキャンプだったと思います。そして迎えた 3 回目。僕は最年長かつ、一番の経験者としての立場（ゆうたも同じだけど）。リーダーではなかったけど、上の立場として引っ張っていく大変さを知ることができました。そして、いちばん責任があって、大変なリーダーのことを支えていくことの大事さも。JIA のみんなも、こんなに準備に時間を費やしてそして、考えて、、、、一つのキャンプができるまでにはこれだけの労力が必要なんだということを改めて強く感じました。実は、今回はキャンプ前のモチベーションが今まででいちばん低かったです。要因はいろいろ考えられるのですが、キャンプに慣れてしまっていたり、今までとは違う村でのワークキャンプだったり、係の事前のミーティングがメンバーの都合で開くことができなかったりなどで、結構やばかったんです

けど、結局は行ってしまえばめちゃくちゃ楽しんで帰ってきてました（笑）。村人とまた会えたことはとても嬉しかったし、以前のキャンプで仲良くなった友達と再会したり、新しいともだちがたくさんできたり、何度いってもキャンプは楽しいものです。ここで、僕が体験したとある日常を紹介します。儒洞村のある夫婦のところへ行ったとき、彼らは夕ご飯を食べていました。僕はタイミングが悪かったなぁと思ってまた来るねってその場を立ち去ろうとしました。しかし、彼らは僕を引き止め、一緒に食べよう！美味しいよ！と話しかけてくれました。広東語はわからないけど、そう言ってる気がしました。言葉はわからないけど、身振り手振りで通じるものはいくらでもあります。3人で食卓を囲んでご飯を食べている間、僕はとても幸せな気持ち、本当のおじいちゃんおばあちゃんと過ごしているような気持ちになりました。彼らもそう感じていてくれたら、いや、きっとそう感じてくれていると思います。たしかに彼らは昔、ハンセン病という病気にかかり、差別を受けてきましたが、彼らが幸せに“いま”を過ごしてくれることが僕の望みです。そして、そのために僕ができることはなんでもしてあげたいと思っています。この報告書を通して僕の経験がより多くの人に何か感じさせることができれば幸いです。長文になりましたがここまで読んでくれた皆様、ありがとうございました。

柴田真人

チャイナキャンプ、フィリピンキャンプを経験し、再度帰ってきたチャイナキャンプ。ワークキャンプ地は昨年訪れたことのある高明村だった。

二度目の高明でまず始めに驚いたことは、ほとんどの村人が自分のことを覚えてくれていたことだ。昨年一度訪れたことがあると言ってもたったの2泊3日だ。自分はほとんどの村人の名前を忘れてしまっていた。その申し訳なさはあったが、覚えてくれていることが心から嬉しかったのは事実だった。

今キャンプではホームビジットの際、主に二つの質問をした。一つ目の質問は「日本人に何をしてほしいか」だ。この返答は様々だった。「日本に連れてってくれ」と答えてきた際には、「なら長生きしてくれ」と返した。「今のままで十分だよ」と答えてくれた時には素直に感謝の念を伝えた。「日本語喋るな！広東語喋れ！」と言ってきたときには、日本語と広東語を教え合った。どの回答も心温まるもので、一つ一つが心に残る時間だった。もう一つの質問は「何をしている瞬間が一番幸せか」というものだ。キャンプ最終日、仲の良いおじちゃんにこの質問を投げかけた所、チャイニーズキャンパーの通訳越しに帰ってきたのは

「Nothing」の一言だった。その後の通訳曰く、そのおじいちゃんはハンセン病で足を悪くして村にきて以来、幸せを感じたことは一度もないらしい。その時、私は時間が止まったような感覚に襲われ、村人に何も返答することが出来なかった。私はキャンプ中、ハンセン病にはあまり捕らわれずに交流を行ってきた。暗い歴史のみを聞き、後世に伝えることは村人に「可哀想な人」というレッテルを貼ってしまう結果になり得る。あくまで暗い歴史は前置きであって、村人は「差別や偏見の歴史を生きてきたにも関わらず、可愛い笑顔を向けてくれる尊敬できる方々」として認知していたし、今でもその認知の仕方は変わらない。しかし、おじいちゃんとの今までの思い出と相まって、ハンセン病を強く意識せざるを得なかった。ハンセン病のせいでこの大好きなおじいちゃんは何十年も幸せを感じられないまま生きてきた。ハンセン病にまつわる歴史を忘れさせてはいけない、後世に語り継がなくてはいけないという使命感に駆られた瞬間であり、今まで目を背けていた前置きの部分にも、もっと焦点を当てる必要があると感じた。

ここで、昨春行ったフィリピンキャンプと今回のチャイナキャンプを比較して感じたことを少し書き綴りたいと思う。もちろん、言語、ワークキャンプの主な目的、村人の年齢層など相違点は山ほどある。しかし、根本的な部分で両キャンプは似通っていると感じた。それは自分が村人のことを想って考えれば考えるほど、村人も応えてくれ、より良いキャンプになるということだ。中国の村人は「日本人がはるばる来てくれるだけで私は嬉しい」と言ってくれる。フィリピンにおいても、村の端に位置していて、交流が出来なかった村人も完成したワークに確かに感謝してくれていた。しかし、それだけに留まらず、村人は何を望んでいるのか、自分に出来ることが何なのかを見つめ、行動や表情、好意として村人に示せば示すほど、村人も自分のことを思ってくれることを 3 度のキャンプを経て実感した。そして、深い関係を築けば築くほど、自分にとっても、村人にとっても良い思い出となり、中国の村人には少しでも生きがいを与えることができるかもしれない。フィリピンの村人はワークに思い入れを持ち、より長く使ってくれるかもしれない。村人の為になる可能性が少しでも上がる。昨年、私が行ったチャイナキャンプでは村人と距離を詰めることを恐れ、考えることを放棄していた面があり、村人とあまり親密な関係になれなかった。その後悔をバネに、村人と全力で関わろうとした今キャンプでは、自分にとっても「また必ず会いたい」と思える村人ができ、「村に永住しろ！」と帰り際に袖を引っ張って無理難題を言ってきた村人がいたことが本当に嬉しかったのを覚えている。

あらゆる感情が入り交じり、一貫性のない感想となってしまったが、ここらで素直な結論を述べて終わりにしたい。チャイナキャンプは「考える」機会を終始与え続けてくれ、自分を成長させてくれる。尊敬できる人との出会いに満ち溢れている。喜怒哀楽全ての感情を含めて全力で楽しかったと言うことができる。私はそんなチャイナキャンプが大好きであり、きっと、来春また訪れたとしても、もう一度行きたいと思ってしまうのだろう。

中川大輔

大学生になったらボランティアをしてみたいと思っていました。1 年生の頃は他にしていたこともあったし、ボランティアに参加する勇気もなかったため保留。2 年生になって、やっぱり人生で 1 度くらいはボランティアしてみたいなという思いが募って、キャンパー募集に応募することにしました。私は内向的で新しいことに挑戦したりすることが苦手なので、中国に行くという決断をしたことは大きなことでした。なぜ中国を選んだかというと、報告会で 1 番最初に中国に行ってから他の国に行ってみるのも有りという言葉を聞いたのと、中国に行った友達が帰ってきたときに逞しく見えて、それに感化されたからです。FI の活動にも 1.2 回ほどしか参加していなかったので、ほぼ初対面の人とキャンプに行くことに対して不安しかありませんでした。中国に飛び立つまでのミーティングを通して、一緒にいくキャンパーがみんな優しくて不安も少し和らぎました。キャンパーは 2 年生 6 人と 1 年生 1 人と FIWC 関東のまなみさんで、私以外の 2 年生はキャンプ経験者だったので、みんなについていこうという気楽な気持ちでいました。

村に着いたとき村人が笑顔で歓迎してくれて、みんなキャンパーが来るのを心待ちにしていたんだなと感じました。ワークキャンプ中は企画が結構あってハードなスケジュールだったし、村人とのコミュニケーションの仕方がよく分からず心が折れそうになりましたが、日本人キャンパーも中国人キャンパーも気にかけてくれたので、すごく助かりました。初めて訪問した私に対しても挨拶や握手をしてくれたり、ネームカードに興味をもって名前を呼んでくれたりと、私まで自然と笑顔になれました。正直言うとお年寄りとの会話はあまり得意ではなく、日本だと何を話したらいいのか分からなくて困ることがあるけれど、中国だと言語が通じない分、一緒にテレビをみたり村人からもらったお菓子を食べたりするコミュニケーション方法だったので、楽に感じました。村人は私達に対して積極的に話しかけてくれたし性格も明るい人が多かったけれど、それは昔からではなくて、何回もキャンプを重ねて村人とキャンパーがコミュニケーションをとったからこその今があると知りました。差別されていた事実や差別で負った心の傷が消えることはないけれど、村を訪問することで村人が少しでも元気になるなら、このキャンプがずっと続いてほしいと思います。フィリピンやネパールのように目に見える何かを作り上げるキャンプではないので、物足りないと感じる人もいるかもしれませんが、中国の良さは心と心が通じ合えるような活動ができるという点だと思います。中国人キャンパーと英語で会話できたことも嬉しかったです。日本で生活していると英語で話す機会はめったにないので、いい英会話の練習ができたと思います。中国にいる間は、1 回ボランティアすることができてもう満足、中国に来ることももうないだろうと思っていたのに、こうやって振り返ってみると何故だかわからないけど、また行きたいと思い

始めてきました。また行こうかな中国。

青木里花

私は、今まで一度も海外に行ったことがなかったので、今回のこのチャイナキャンプが初めての海外でした。行く前は、緊張や不安な気持ちもありましたが、実際に行ってみて、帰ってきた今、チャイナキャンプに行ってよかったなと思いました。

中国に対するイメージは、あまり発達していなくて、どちらかというと田舎っぽいと思っていましたが、都市部は高層ビルがたくさんあって、福岡よりも全然都会でした。地下鉄の切符がコインみたいだったり、どこを歩いてもとにかく人が多かったり、文化の違いを体感して、毎日面白かったです。

今回のキャンプでは、２つの村を訪問しました。１つめの光地村では、市場で食材を買っていって、村人の家の冷蔵庫に置かせてもらったのですが、ご飯のときになんとその食材が料理になって出てきて、びっくりしました。私たちを快く迎え入れてくれて、わざわざご飯まで作ってくれて、村人たちの温かさを感じました。村人はとても明るくて、部屋に話をしに行くと、喜んでお茶を出してくれて、お茶おいしいよと言ったらにっこりと嬉しそうにして、その姿はとてもかわいかったです。家族の話や、村人は以前訪れたキャンパーのことをとてもよく覚えていて、その人はいま何をしている、とか、いろいろなことを話して楽しかったです。

２つめの儒洞村では、フリーな時間が多くて、たくさん村人と交流することができました。しかし、その分村人とコミュニケーションをとる難しさも感じました。村人が何を話しているのか全く分からなかったし、面白い話でも、村人が喋って、それをチャイニーズキャンパーが通訳してくれて、それから笑う、みたいに、目の前にいるのに会話に時間差がうまれてしまって、なんだか悲しかったです。だから、チャイニーズに広東語をいくつか教えてもらって、それを話してみたら、村人がとても嬉しそうにしてくれて、会話ができたような気持ちになって、とても嬉しかったです。また、儒洞村では、プロジェクトも行いました。とても盛り上がって、村人たちも笑顔で楽しんでくれて、素敵な思い出になりました。日本語教室で教えた日本語を、村人が覚えて、次の日の朝におはよう！と言ってくれて、とても嬉しかったです。

一緒にキャンプに行ってくれたチャイニーズも、本当にいい人ばかりで、積極的に話しかけてくれたり、日本語をいくつか知っている人もいたりして、すごいなと思いました。また、お互いの学校のことや、流行っているものについて話したり、ユーモアたっぷりに面白い話

をしてくれたりして、とても楽しかったです。
このチャイナキャンプを通して、キャンプの楽しさだけでなく、村人との関わり方や、ちゃんと気持ちを考えることができていたか、日本人キャンパー同士で思いを共有できていたかなど、キャンプの難しさも知りました。本当に色々なことを学びました。9日という短い期間で、あっという間だったけれど、日本でできない経験がたくさんできて、充実した日々を送れて本当によかったです。

仲村美咲

キャンプ3回目だからか、今回の感想はそんなに張り切らずに書ける気がする。しかし3回目と言っても、チャイナは初だから実際は戸惑うことばかりだったけれど…

私たちは先発と合流する前に、広州から列車で数時間かかる陆丰(ルーフォン)という村でvisitを行った。ルーフォンは2012年から2016年まで、JIAとQioがキャンプを行っていた村であり、村のいたるところに“彼らの跡”が残っている。その跡は目に見えるものも、見えないところにもあった。それは村人の記憶の中。村人の人数は少なく、一緒にいたチャイニーズ3人はその当時のキャンパーたちで多くの村人と仲が良かったため、ほぼ全員の村人と話しをした。何年も前のキャンパーの名前や当時の思い出をきちんと覚えていて、わたしはただただ驚いていた。そして、村人はキャンパーたちの今を聞いたりしていて、今は結婚しているよだとか、これがその写真だと言って村人に見せると村人はとても喜んだ顔をしていて…そんな光景を見ていて、ほっこりして、村人がキャンパーたちのほんとうのおじいちゃんおばあちゃんのように見えた。でも、このように感じたのはルーフォンだけではなく、次に訪れた儒洞(ルードン)でもだった。

ルードンで印象に残っていること、それはキャンパーたちの村人への接し方。特に、ゆうた、まさみ、しばたーはすごかった。ゆうたは、ゆうたの一番仲の良いおじいちゃんのもとに連れて行ってくれた。その二人のやり取りはまさかの日本語と広東語。驚いた。なんで言葉が通じていないのにこんなにも仲良いの？って。でも、ゆうたは言葉が通じてはいないけれど、お互いの好きなタバコで時間を共有したり、ジュースやお菓子を一緒に食べたりと、同じ時間を共有できているだけで良くて、良いなぁと思った。まさみは私にアドバイスをくれた。自分の手を村人の手の上に置いたり、足の上に置いたりすると良いと。やってみようと思ったけど、まだ会って間もないさっきまで他人だった私がそんな風に触っても良いのかな？触れるかな？と思うとなかなかうまくできなくて、まさみはよく

村人の本当に近くにいて、村人も嫌がってなくて、逆に手を握り返していて、そんな関係が見ていてとても羨ましく感じた。しばたーは普段どこにいるか分からなかったけれど、自分の得意なけん玉で村人と遊んでいたり、タバコを吸って交流していたりと、しばたーも見ていて羨ましく感じている自分がいた。日本にいる時には感じることのなかったこの3人のおじいちゃんおばあちゃんとのコミュニケーションの取り方は、本当に感動して、こんなに心ゆさぶれる光景を目の当たりにして、私はとても嬉しかったのと同時に、中国の村に行ってずっと抱いているのが…村人とキャンパーのこの良い関係が羨ましいという感情である。何回も会うことで、やっと良い関係になれるのであろうが、今回私は初めて出会ったから難しくて、でもそんなのは当たり前で…羨ましいと思ってしまったからまた行くしかないと思う。今回のキャンプで、どれだけ自分が残せたか分からないけれど、全然少ないしあるかも分からないけれど、お別れの時、村人が私の手を強く握り、抱きしめてくれたから、その思い出がある限り私はまた会いに行く。

井上梨央

去年の夏に続き２度目のfi九州主催ビジットに参加。どうも、fi関東のまなみです。(笑)
みんなと小学生レベルのくだらない下ネタで笑ったり、下品な広東語教えてもらったり中々楽しいビジットでした。やっぱりキャンプには欠かせないよね！！！
またいつかみんなと村に行けたらいいな！これからもよろしく！そして、ありがとう！
年末キャンプで会おう(‘ω’)ノ

須田愛美

今後の方針

【　2019 年春チャイナキャンプ募集要項　】

日程：　2019 年 2 月中旬～3 月初週の約 2 週間
場所：　中国広東省広州地区
活動内容：　ハンセン病快復村でのワークキャンプ
費用：　およそ 10 万円
募集人数：　約 5 人

募集期間：　11 月 26 日迄

【チャイナキャンプ説明会】
春のキャンプにむけて説明会を行います！！
興味がある方はもちろん、どのキャンプに行くか迷っている方！
是非、気軽に遊びに来て下さい！

11/3(土)	FP（3 キャンプ合同説明会）	19:00~@びおとーぷ
11/6(火)	説明会	16:30~@九大メインダイニング
11/12(月)	説明会	未定　@西南クロスプラザ

ちなみに…全てフィリピンキャンプと合同で行いますので、フィリピンとチャイナどちらも聞きたい方は特に必見です‼☆

また、上記の日程が厳しい方には個別説明会を行います。
いつでもどこへでも説明しに行きますよ～！お気軽にご相談下さい(^▽^)/